

令和7年度事業報告(美術館)

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1. 「酒呑童子展」の開催 44日間 来場者 29,377人

- ア. 名称 「酒呑童子ビギンズ」
- イ. 会期 令和7年4月29日(火・祝)～令和7年6月15日(日)
- ウ. 概要 平安時代の武将・源頼光が悪鬼・酒呑童子を退治する説話は、14世紀以前に成立し、やがて絵画や能などの題材になって広く普及した。なかでも、室町時代の狩野元信筆「酒伝童子絵巻」(以下、サントリー本)は、江戸時代を通して何百もの絵巻に描き写され、多大な影響を与えた古例として有名である。本展では、近年修理を終えたサントリー本とともに、ドイツ・ライプツィヒで発見された住吉廣行筆「酒呑童子絵巻」を約140年ぶりに里帰りさせ公開することにより、知られざる酒呑童子絵巻の多様な展開を美術ファンに紹介し好評を博した。
- エ. 展示
- ・重要文化財「酒伝童子絵巻」狩野元信筆 三巻 大永2年(1522) 当館蔵
 - ・「酒呑童子絵巻」住吉廣行筆 六巻のうち二巻
天明6～7年(1786～87) ライプツィヒ・グラッシー民族博物館蔵
 - ・「酒呑童子絵巻下絵」住吉廣行筆 六巻 天明6年(1786) 大阪青山歴史文学博物館蔵

2. 「まだまだざわつく日本美術展」の開催 48日間 来場者数 32,818人

- ア. 名称 「まだまだざわつく日本美術」
- イ. 会期 令和7年7月2日(水)～令和7年8月24日(日)
- ウ. 概要 作品を「見る」ために展覧会へ行ったのに、キャプションを読むのに精一杯で、肝心の作品の印象が残っていない…そんな「視れども見えず」という体験をした方々に、「心がざわつく」ような展示をきっかけに、作品をよく見ることを意識して楽しみながら、日本美術のエッセンスを味わって頂くべく、本展は2021年開催のコレクション企画展「ざわつく日本美術」の第2弾として開催。従来の美術ファンはもとより若者や親子連れ等、幅広い客層の方々にお越しいただき、当館のファン層を広げることに貢献した。
- エ. 展示
- ・「袋法師絵巻」一巻 江戸時代 17～18世紀 当館蔵
 - ・重要文化財「日吉山王祇園祭礼図屏風」土佐光茂筆 六曲一双 室町時代 16世紀 当館蔵
 - ・「東こぎん 着物」一領 江戸～明治時代 19世紀 当館蔵

3. 「絵金展」の開催 50日間 来場者数 47,381人 読売新聞社と共催

- ア. 名称 「幕末土佐の天才絵師 絵金」
- イ. 会期 令和7年9月10日(水)～令和7年11月3日(月・祝)
- ウ. 概要 謎の天才絵師とも呼ばれる土佐の絵師・金蔵は、幕末明治期に多くの芝居絵屏風を残し、地元高知では「絵金さん」の愛称で長年親しまれてきた。同時代のどの絵師とも異なる画風の屏風絵は、今も夏祭りの間に高知各所の神社等で飾られ、闇の中に蠟燭の灯りで浮か

び上がる芝居の場面は、見るものに鮮烈な印象を残す。そのような彼の類稀なる個性と魅力を備えた作品の数々を展示した本展は、東京の美術館で開催する初の大規模展として、美術ファンだけでなく有識者からも非常に高い評価を得た。

- エ. 展示 ・「伊達競阿国戯場 累」二曲一隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町二区蔵
・「花衣いろは縁起 鷲」二曲一隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町二区蔵
・「浮世柄比翼稻妻 鈴ヶ森」二曲一隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町一区蔵

4. 「根来展」の開催 44日間 来場者数 20,985人

- ア. 名称 「NEGORO 根来 一赤と黒のうるし」
イ. 会期 令和7年11月22日(土)～令和8年1月12日(月・祝)
ウ. 概要 「根来」は、中世に栄華を極めた根来寺(現在の和歌山県)で生産されていたとの伝承から、後世「根来塗」と称された漆器であり、塗りの一技法でもある。黒漆に朱漆を重ねた姿に、耐久性と美しい造形を備えた根来は、古代より寺院や神社などの信仰の場で使われ、近世以降には民衆の生活の場でも大切にされてきた。そのような根来誕生の起源に迫りつつ、魅力あふれる色と造形をそなえた名品群を一堂に展示した展覧会として当館の新たな魅力と価値向上に貢献した。
- エ. 展示 ・「朱漆塗湯桶」一合 当館蔵
・「朱漆塗瓶子」一口 当館蔵
・「朱漆塗三足鉢」一口 当館蔵

*令和8年1月下旬から令和8年4月初旬まで定期改装工事実施の為、休館。

収益目的事業

1. 物販事業

収蔵品をモチーフとした商品開発、展覧会内容・季節の催事を取り入れた転倒ディスプレイにより、お客様に繰り返し足を運んでいただける魅力的なミュージアムショップを目指した。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の老舗ならではの信頼感とブランド力を活かしつつ、オリジナル性に富んだメニューを提供することにより、新規顧客の拡大とリピーターの増加を目指した。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出を通じて、収益を得るだけでなく、日本の伝統文化の啓発という当館ならではの価値訴求を心掛けた。

以 上